

高濃度乳房とはなんでしょう？

多くの国では乳がん検診は、マンモグラフィ撮影（乳房エックス線撮影）が使われています。

その理由は、乳がん検診の歴史がスタートした欧米では、脂肪が多くかつ大きい乳房の方が多く、そのような乳房はマンモグラフィで乳がんを見つけやすいという特徴があるためです。

一方、日本では、欧米の方に比べ脂肪が少なくかつ小さい乳房の方が多く、エックス線上で、病変とのコントラストがつきにくく乳がんが見付けにくい、高濃度乳房の方の割合が多い傾向にあります。

過去の日本のデータでは、40 歳代に限れば約 6 割の方が、また 50 歳以上の女性を含めても約 4 割の方が高濃度乳房に評価されることが分かりました。

また、日本人女性の乳がん好発年齢は、欧米より早い 40 歳代後半に多い特徴があるため、日本ではマンモグラフィ検診による乳がんの検出が困難な方の割合が多いことが分かってきました。

そこで、このマンモグラフィの欠点を補うべく、超音波検査による検診が、各自治体で始まるようになりました。堺市では、平成 30 年 8 月より乳がん検診超音波検査を始め、現在、40 歳代の女性でマンモグラフィ検査で異常なしの結果となり、高濃度乳房と評価される場合に実施しています。

来年 3 月まで堺市の乳がん検診超音波検査は無料ですので、ぜひこの機会にご利用ください。

令和元年 12 月

米田 光里